

R S T 6 分野 7 項目 〈具体例同定〉

具体例同定は定義を読んでそれと合致する具体例を認識する力

例えば、「2, 4, 6, 8・・・のような整数を偶数という」といっても、それでは-1 1 0はどうか、0はどうか、という判断はできません。「2で割り切れる整数を偶数という」とか「2の倍数であるような整数を偶数という」という定義を使わないと正確には伝わりません。

定義は社会科学も含めて、音楽の楽理や家庭科の理論から数学まで、科学分野の用語を導入するときに主に使う方法です。そして、中学以上では、国語と歴史を除くすべての教科書で急増します。国語や英語では、辞書を使って新しい語彙を導入するときや文法を教えるときに定義文が出てきます。定義文を理解し、具体的な例がその定義に当てはまるかどうか判定することを「具体例同定」とよびます。

具体例同定がつかずきの原因

この具体例同定の能力が十分に伸びていない状態で中学に進学することが、中学校での学習のつかずきの原因になっているらしい、ということが研究により徐々に明らかになってきました。小学6年生は、前述の偶数の定義のような簡単なものでも半数以上が読めません。そのまま中学に進学すると、特に理数系で定義の集中砲火を受け、参ってしまいます。高校や大学に進学しても定義を読まざるを得ません。就職すると、契約書も仕様書も全部定義だらけです。

リーディングスキルテスト（R S T）の問題

では、リーディングスキルテスト（R S T）「具体例同定（辞書）」の問題をやってみます。

以下の文を読みなさい。

人間が欲望を満たすために、生活に必要な物資など（財・サービス）を使うことを消費という。

「消費」にあてはまるものを選択肢の中からすべて選びなさい。

- ① 学生が大学に通って教育を受けること。
- ② 出張に行ってビジネスホテルに泊まること。
- ③ ピアノを使って曲を演奏すること。
- ④ 暑いときや寒いときにエアコンをつけるために電力を使うこと。

正解は、①、②、④です。これは、易しい問題です。次は、「具体例同定（理数）」です。

以下の文を読みなさい。

正の整数を自然数という。また、不足数とは、その約数の総和が元の数の2倍より小さい自然数のことである。

「不足数」にあてはまるものを選択肢の中からすべて選びなさい。

- ① 0
- ② 1
- ③ 3
- ④ 6

正解は、②、③です。これは、超難問です。

授業において「具体例同定」を意識した手だてとして、理解が曖昧な言葉は、教科書や辞書等を使って調べる、定義文は全員で復唱する、新しく学んだ用語を使って文章を書く場面をつくるなどがあります。本校生徒のリーディングスキルテスト（R S T）の結果を見ると、具体例同定でも辞書よりも理数の方が弱いことが明らかになっています。授業の中で意識的に取り組んでいかないと現状を打開することは難しい分野です。